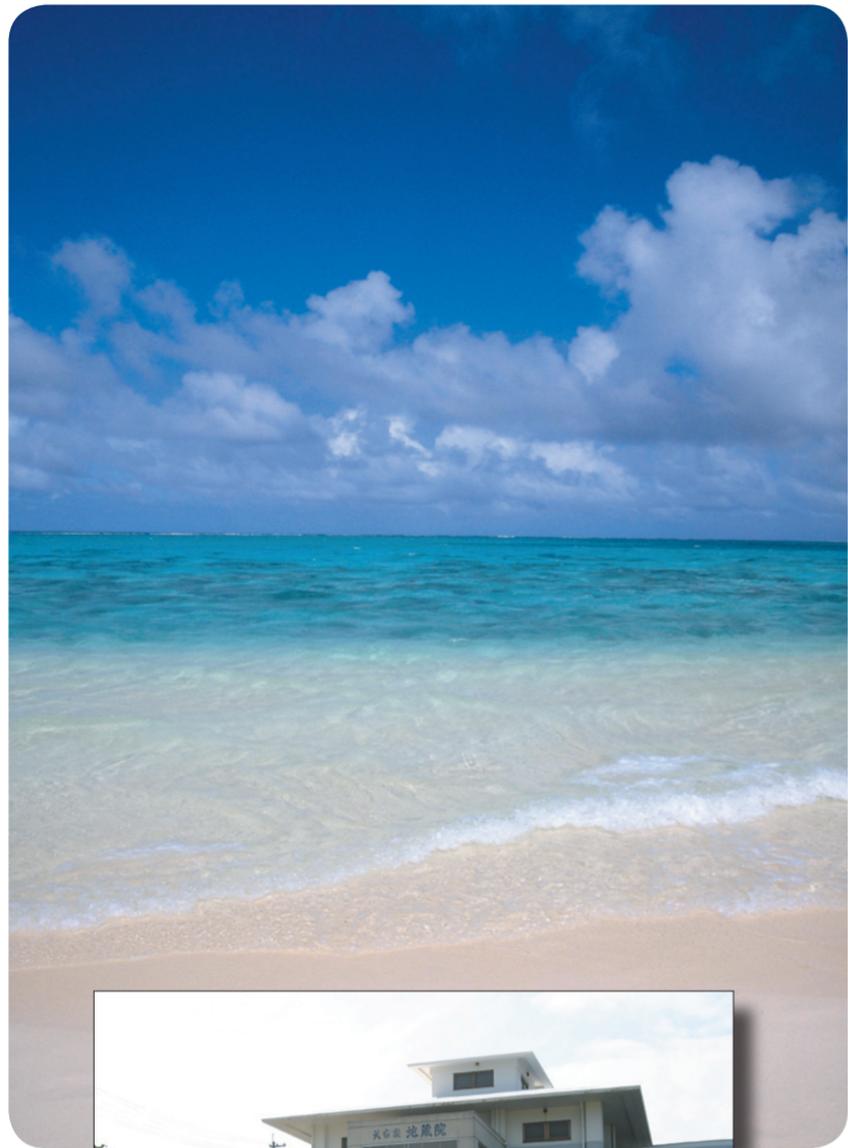


# 天台の法灯が初めて沖縄へ

## 新寺建立し、布教を展開



沖縄県具志川市に建立された地蔵院

これまで、天台宗寺院がなかった沖縄に、寺院を建立し布教に歩く僧侶がいる。金城眞永師(五十歳)。寺は沖縄県具志川市の地蔵院である。もともと金城家の田があった土地に新寺建立した。天台宗と包括関係を結び、所属教区を決定して法人格を取得すれば、初めて比叡山で修行した僧侶によって沖縄に天台の灯がともされる。

沖繩に帰り、五年間天台の布教に努めている。沖繩は、琉球王国であった徳川初期に島津侯に征服され、以来その宗教政策と伝統宗教により天台の教義は根付かなかつた。記録によれば、大正時代にひとり修験系の僧侶がいたことは判明しているが、比叡山で修行した僧ではなく、まもなく他宗に転派している。このため地蔵院は沖繩で初めての天台宗寺院であ

り、金城師は、初めての正統な天台宗僧侶となる。開宗千二百年慶讃大法会で、総授戒を進めるにあたり天台の拠点の少ない地にも調査をしたところ、谷住職から西郊良光宗務総長に連絡があり、その存在が一躍クローズアップされたもの。金城師は「沖縄の風習、文化を取り入れながら、天台の教えを弘めてゆきたい」と語っている。

### 素晴らしき言葉たち

Wonderful Words

人は花を見ているとき、花から自分が見られているとは思わない。しかし、花はたしかに人を見ています。好悪の感情さえ抱いて人間を見ているのだ。

「仏教のキーワード」

紀野一義 著 講談社現代新書

植物にも、好きな人間と嫌いな人間があるそうだ。電流を流す装置を使って反応を見ることが、その植物がどんな「感情」を持っているのか判断できるといふ。例えば、「この花は切つてしまおう」などと喋ったりすると、当の花は恐ろしさで、大きな動揺を示すらしい。反対に「なんて綺麗なんだろう」と賞めたり、美しい旋律の音楽を聴かせたりすると喜びの反応を表すということが、科学で証明されたのだそうだ。さすがに現代科学は素晴らしい。いわば、科学は、このよ

# The Tendai Journal

## 天台ジャーナル

### 広報天台

2004年(平成16年) 5月1日土曜日 (毎月1日発行)

1部 50円(消費税込・送料別)  
発行所/天台宗出版室  
発行人/出版室長 工藤 秀和  
〒520-0113 大津市坂本4-6-2  
天台宗務庁内  
電話 077-579-0022 (代)  
Eメール/T-Press@tendai.or.jp

#### 一隅を照らす運動推進会報

<一隅推進会員>  
年度会費(2500円)中に会報(天台ジャーナル)購読料を含む。

#### 極微 ごくみ

電車の中で女子高生に見とれたことがある。容姿ではない。携帯電話のメールを打つその速さである。まさに神業。自分に比して情けなくなつた。思えばケータイの急速な浸透、発達は目を見張るばかりである。次々と新機種が発売され、機能もアップし、オジサンにはついてゆけない世界になりつつある。神業メール打ちを眺めつつ、ふと発売当初に問題視された電磁波の脳への影響について考えてみたりする。続々と新機能搭載もいろいろ、メーカーにはペーサーカーを使用している人々への対応を、一日も早くクリアして欲しい、そんなことも考える。

### 天台ジャーナル 第三種郵便物認可

本紙天台ジャーナルは、四月二十日付で第三種郵便物に認可されました。これも読者の皆様の暖かい御支援の賜と篤く感謝申し上げます。

割引料金が適用されます。この機会に、是非檀信徒の皆様にも配布を頂きたい、定期購読のお願いを申し上げます。

### 檀信徒の方への発送代行します

なお、毎月の発送が煩雑とお考えの御寺院様のために、天台宗出版室では発送業務の代行をいたします。詳しくは、同封別紙をご参照頂くか、または直接お問い合わせ下さい。今後とも引き続き、ご愛読をお願い申し上げます。



花想風言

五月の比叡山は草花が鮮やかに映える時期だ。か細い行者道や、谷の斜面にはエイザンスミレやアマドコロに混ざって、ホウチャクソウが咲く。ユリ科の多年草だが、冬の叡山では親個体は枯れて地下茎の先端が生き残り、翌春地上に顔を出すのだ。草の名の由来は佛塔の軒に吊られ、風力でも鳴る宝鐸の形に似ることからつけられた。横浜の三溪園に京都・加茂郡から移築した旧燈明寺の三重塔があって、ハマの潮風に吹かれ淋しげに鳴る音を聞いたことがある。中学生のころ、叡山ケールの山上駅から三百メー

第2回 宝鐸草 福田徳衍 (文・写真)

ホウチャクソウ

トルほど登った西尊院堂に留守番をしたことがあった。近くに東塔南谷の歴代僧侶の墓地があって、老杉の麓にホウチャクソウが群生した。やがてジーン台風でお堂は半壊、杉が倒れてケールブルは長期運休、しめしめとばかりボクは長期間不登校で兄弟子たちが残した本や雑誌を乱読して過ごした。中年で東京から叡山に招かれ、一山住職で生涯を終わった父がのこした歌がある。宝鐸草ことしも咲けどそのかみの親しきひとに会えぬわびしさ 實衍



『善を尽くして生きる』

州に大師の像を建てたいのだが、なかなか良い場所がない」という話を聞いた森住職は、夢で『宝満の里』と教えられた気がした。それで現地を訪ねたところ、大師の足跡が数々残されていることに不思議な縁を感じて「身震いするほど感動した」。そのことが縁となって、建てたばかりの福岡の家を処分して自分がこの地に移り、妙香庵を開くことになってしまった。協力者も現れて昭和六十二年十一月に、大師の尊像は開眼を迎えるのである。



鬼手仏心

和顔愛語

天台宗務総長 西郊 良光

「和顔愛語」という。おだやかな顔、やさしい言葉、のことである。これは、常に他人を思いやる気持ちが必要ならば出てこない。今、日本の社会は、和顔愛語で暮らす人々が少なくなつた。

グローバルスタンダードという弱肉強食の論理を「世界基準」だとマスコミが喧伝してから和顔は影をひそめ、また、感情言葉が氾濫してから、思いやりある言葉は、あまり聞かれなくなった。最も和顔愛語をもって、自

分の子どもに接するべき母親が、ひどい虐待や傷害を行う。和や愛に代って、孤独という立ちが引き起こす事件である。不安や不満が、人間の心をシャットアウトしている。その不安や不満の原因のひとつに、日々繰り返される情報洪水がある。ほとんどは欲望を煽るもので、人々の心に欲求不満を残すものだ。本来、情報やモノを自由に取捨選択できるのが成熟した社会ではないかと思うが、そんな

生やさしいものでない。よほど自分を強く持たなくては、

押し流されてしまうほど脅迫的なものだ。我々は、餓鬼の世に生きているのかも知れぬ。宗祖大師は「さとりを得たよろこびを、私は決して独占しない」と述べられている。常に心を静かに保ち、自分を忘れて他の幸せのために祈り、行動することが天台宗の基本だ。あなたの思いやりのあるやさしい言葉で、一日の疲れを忘れる人や、生きてゆく勇気を与えられる人が、きつといる。

つといる。

力見つけ! 縁信

宝満山の大師像

を求めて難波の津を唐に向け出帆した大師は、瀬戸内でも暴風雨に合い、遣唐船は難破してしまひ筑紫に漂流。その後、一年間を太宰府などで過ごしながら、無事入唐を祈願したのである。

二十年程前に、久留米・観音寺の菊川春暁住職から「九



伝教大師像の前に立つ森住職

太宰府・妙香庵 森 妙香 さん

福岡県太宰府・宝満山の中腹に合掌する伝教大師の像がある。天台宗妙香庵(森妙香住職)が昭和六十二年に建立したものである。

身の丈、五メートルに及ぶ堂々たる像である。伝教大師の視線は、太宰府の町を越え、背振山系を越え、玄界灘の向こう、遙か中国の地を望んでいる。この地は、大師が遣唐船を待った地である。千二百年前に、天台の教え



# A Story in the Tendai

## 聖でもなく、俗でもなく、ただひとつの道を

延暦寺・仲座 岩崎 惠哲 さん

# 仏と生きる

Vol.1.5

ずっと不思議に思っていた。比叡山延暦寺での大法要の時に、必ず黒子のように付き添う人々のことである。頭は刺っっているから、在家からみれば「僧」である。しかし、僧侶としての扱いはない。正式な役職名は「延暦寺仲座」。ある時には、天台座主と探題(次期座主)しか入室を許されない秘儀にも立ち会い、ある時には、下座でじっと控えている。千二百年の伝統を持つ仲座職は、聖でもなく俗でもない。しかし、かつては皇室から比叡山に直接に辞令が下賜されたのは、天台座主と仲座だけであったという。

### かつて辞令は皇室から

仲座は比叡山独自の役職で、延暦寺で行われる法要儀式全般の準備と荘厳(飾り付け)に関する一切を取り仕切る。他宗や一般寺院では、僧侶自身が行うか、小僧と呼ばれる弟子の仕事である。

### ◎六年越しのプロポーズ◎

かつて比叡山では、僧正以上の僧侶は、雑事をしないという不文律があったからだという。しかし、この役が単に準備や飾り付けという受け身の存在でないことは、あとで述べたい。

### 昔の作法通りに

### ◎記録魔のメモ◎

岩崎は山口県出身である。大学へ入学したものの、当時は学生紛争で混沌とした時代だった。加えて卒業後の進路について両親と意見が合わず、留年して様子見をしていた時に、見かねた父親が比叡山の阿闍梨に預けたのが、この世界との出会いである。比叡山で居候しながら、長髪で大学に通う、偏狭な青年だった。

岩崎が師匠と仰ぐ今井は、また記録魔として知られた。今井の残した法要や行事の記録は、段ボールに何十箱にもなる。

### ◎間違いのない一人◎

どんな法要行事でも毎回々々、不備がないかと緊張の連続だ。それだけに、無事に終わった時の開放感といつたらない。

岩崎は、昔の作法通りに法要を終えることを使命と思っている。そのことが、昔を今につなげ、未来につなぐことだと信じている。

もうひとつ、大事な役目は後継者を育てることだ。この職は、人数が多ければよいというものではない。それよりも、間違いない一人を育てることが大事である。

彼を育ててくれた今井玄崇は、平成十四年に八十七歳で亡くなっている。「覚悟はしていたが、もう、今井さんがおられないとは信じられない。もっと聞いておかねばならないことがあった。」



托鉢で延暦寺の僧侶らと

その中でも、仲座の起こりは、七九四年に根本中堂の初度供養が行われた時にさかのぼる。桓武天皇から法要の采配をふった威儀師に対して赤袈裟を賜ったことが仲座のはじまりである。座主職以外の僧侶の地位は、延暦寺で自由に裁量できたが、これ以来、座主に加えて威儀師(仲座)には直接皇室から辞令が下賜されることとなった。

堂の相承と呼ばれる重要な儀式がある。座主と探題のみが、お堂の中で秘儀を行う。もちろん、その他は誰であれ入堂は許されない。しかし彼だけは、万一の場合に手伝いが出るよう立ち会っているのである。

そのことを意識してかどうかわからないが、今井の口癖は「俺たちは、お堂のネズミだ」であった。お寺のお堂に、必ずネズミはいる。しかも、それは目立たず、あちこちに入出入りするという意味である。

一隅を照らす



延暦寺の本坊ともいわれる滋賀院での法要準備に当たる岩崎師。着用している仲座のシンボル「赤袈裟」は生涯の師と仰ぐ今井玄崇師より譲られたもの

第2期 續天台宗全書 全十巻 予約購入募集中! 天台宗特価

入手困難な佛典の画期的翻刻印刷 天台宗典編纂所編 春秋社刊行

第1回配本 宗要光聚坊上 天台宗典編纂所 FAX 077-579-6639

ぜひ寺院に1セットお備え下さい

●お問い合わせ 天台宗典編纂所 電話 077-578-5190

第1期全15巻は完結終了しました。有り難うございました。

◎前半一括前払い 100,000円 (5巻代金・消費税・送料込)

◎各巻前払い 21,630円 (1冊代金・消費税・送料込)

ご購入には上のどちらかをお選び下さい。

法要が滞りなく進められるか見守り、翌日は片づけである。四月には、天皇の衣を奉じた大法の「御修法」が七日間にわたって行われた。一年ずつ修法が違い、四年間で一回り。これに法華大会を二回経験して一人前となるが、この頃に慢心からボカミスが出ることも多い。慣れてくると、資料だけに頼るからだ。法華大会の時は、一週間に亘って毎日の平均睡眠は三時間である。出仕する僧侶より早く寝て、遅く起きるわけにはゆかない。

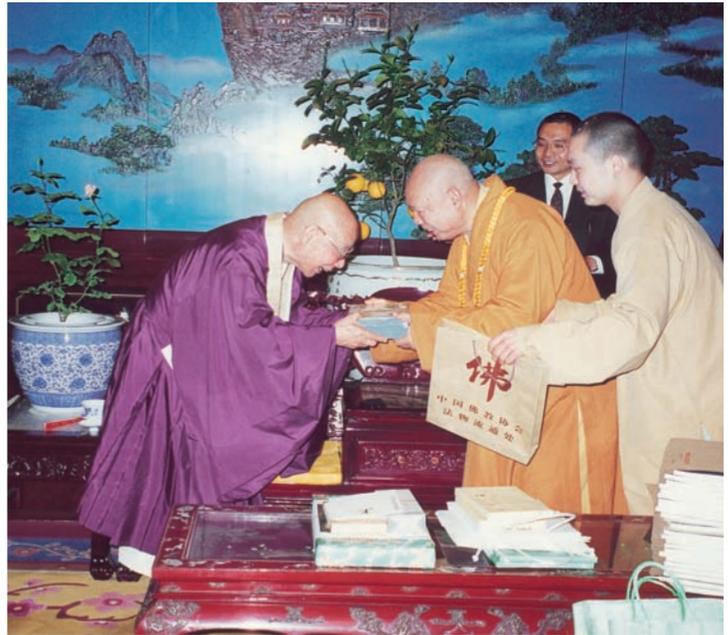
自分では、今井の教えで解っているつもりだったのに、目が届いていなかった所がやはり、ある。困った時は、今井ならどうするか、自問する日々だ。

そんな時に思う。「今井さんは、色々なことを自分に残してくれた。しかし、一番大きなものは何かと考えると、偏屈だった若い日の僕を、丸ごとすっぽりと信じてもらったことだ。今井さんのお陰で、有り難い仕事をさせて頂くことが出来た。六月四日、伝教大師の祥当日には、比叡山浄土院で長講会という論議法要が行われる。岩崎惠哲は、出仕する高僧から離れた下座に、静かに座っている。(文中敬称略)

文・天台宗出版編集長 横山 和人

# 一誠中国仏教協会会長と会談 傅画伯記念絵画展にも出席

天台宗  
代表团



一誠・中国仏教協会会長と歓談する半田孝淳探題大僧正

四月十五日、北京の中国美術館で、水墨画家・傅益瑤女士の来日二十五周年記念絵画展開幕式が行われ、半田孝淳探題大僧正と西郊良光宗務総長が出席した。

今回の絵画展は、傅女士の父君である傅抱石画伯の生誕百年を併せて開催されたもの。

傅女士は、平山郁夫画伯の弟子としても有名だが、天台宗との交流が深く、「圓仁求法巡礼絵図」や「仏教東漸」などの作品が延暦寺に奉納されている。また、日本の祭りに材を取った作品も数多く制作している。今回の絵画展

には、日中両国の協力を得て寺院の壁画、襖絵、祭りなど百五十点が展示された。

さらに、半田大僧正、西郊総長一行は四月十六日に、中国国家宗教局ならびに中国仏教協会を表敬訪問した。同仏教協会では前会長・超僕初師の逝去以来、協会の首脳陣多数が交代しており、一誠新協会会長をはじめ同仏教協会代表と天台宗とは初の会見となり、両者は今後も変わらぬ友好関係の継続を確認しあつた。

西郊総長は「今年は伝教大師入唐千二百年にあたり、渡辺恵進天台座主猥下を名誉総団長とする約二百名が中国を訪れる。中国天台は日本天台宗の源流であり、座主猥下も報恩法要のための訪中であ

## 新作狂言の延暦寺奉納決まる

人間  
国宝 茂山千作氏が開宗千二百年記念に

天台宗開宗千二百年慶讃大法会を記念して、大蔵流狂言方で人間国宝の茂山千作氏社中による新作狂言が上演されることが決定した。

平成十七年には、伝統芸能の奉納が企画されているが、茂山氏による新作狂言は大きな注目を集めている。平成十七年九月三十日から十月二日まで比叡山で上演予定。

新作台本は、瀬戸内寂聴氏が執筆する。この企画について、四月二十日には西郊良光

天台宗宗務総長と、森定慈芳延暦寺執行が瀬戸内氏と茂山家の茂山あきら氏に面談依頼し、承諾を得た。

茂山氏は、平成元年に人間国宝となり、同三年には狂言界で初めて日本芸術院員会員に認定されている。



新作狂言を演ずることになった茂山千作氏

## 台本は瀬戸内寂聴師

【お詫び】先月号(第13号)中、延暦寺一山・大泉坊 鈴木大和師とありましたが、信越・光明寺 鈴木大和師に訂正し、お詫び致します。

## 祝 新任職任命

- 【岡山・清水寺】前嶋弘承師【茨城・観音寺】醍醐孝昭師【東京・覺成院】高橋和幸師【延暦寺一山・実蔵坊】武田功正師【群馬・東昌寺】鈴木正徳師【群馬・正圓寺】鈴木正英師【群馬・覺常院】森祐哲師【近畿・溪谷寺】林圭澄師【三岐・慈明院】小池祖堂師【三岐・観音寺】梶生康文師【信越・瑠璃寺】瀧本慈宗師【信越・薬王院】原康護師【信越・東栄寺】原文護師【九州西・西巖殿寺】鷲岡嶺照師
- (平成16年3月20日～4月20日・法人部調べ)

## 天台トピックス

五月から六月にかけて、天台宗の各外郭団体では、以下の通り総会、研修会を予定している。

- ◎天台宗寺院婦人連合会 総会 5月13日～14日 京都
- ◎天台宗社会福祉事業推進協議会 研修会・総会 5月20日～21日 大分
- ◎天台宗教誨師会 研修会・総会 5月11日～12日 比叡山無動寺
- ◎天台仏教青年連盟 中央研修会 5月11日～12日 比叡山無動寺

台の信仰を深めていただきたい。そのことよって、総授戒運動を一層盛り上げてゆきたい」と語っている。

- 6月7日 日光山輪王寺 布教師連盟
- 近畿地区協研修会 5月12日 福井
- 中部地区教研修会 5月21日～22日 岐阜
- 東北・北海道地区協研修会 6月9日 福島
- 沖縄戦争犠牲者を追悼する慰霊行脚 5月10日 光永覚道阿闍梨講演
- 5月11日 那覇市・首里城から糸満市喜屋武岬・平和の塔までの27キロを行脚

## 訪中団が 国清寺 龍興寺 で日中合同法要

### 天台宗開宗と伝教大師入唐求法1200年



昨年度には天台宗開宗千二百年慶讃大法会が開關し、また本年は伝教大師入唐求法千二百年の年を迎えた。そのことを記念した報恩訪中団が、五月十五日から二団に別れて中国を訪れ、大師ゆかりの天台山国清寺と龍興寺において、日中が合同で報恩法要を行う。

国清寺は、天台大師の遺言により隋の煬帝が建立した寺院。平成八年の天台大師一千四百年大遠忌では、天台宗は報恩訪中団を組織し、同寺の大雄宝殿において日中の報恩法要が厳修されている。

また、龍興寺のある臨海市は、伝教大師が五カ月にわたって滞在され、勉強に励まれた地である。六年前まで、荒廃していたが臨海市の浄財によって復興されている。

今回の訪中団は、第一団が渡辺恵進座主猥下を名誉総団長に五月十五日から十九日まで、また第二団が半田孝淳探題大僧正を名誉副総団長に五月二十九日から六月二日まで、それぞれ中国を訪問する。総団長は西郊良光宗務総長。団員総数は約二百名で、報恩法要では、国清寺の可明住持、渡辺座主がそれぞれ挨拶を行う予定である。

# 仏教とキリスト教のシンポジウムで『天台宗の慈悲』を講演

## 天台宗から西郊総長出席

イタリア・ローマ

去る四月二十三日から二十六日の四日間、「ダルマと仏教の慈悲―キリスト教の愛・アガペ―」と題して、仏教とキリスト教のシンポジウムがイタリア・ローマにて開かれた。主催はキリストの愛と一致の精神に基づく運動を展開しているフオコラーレ本部。天台宗からは西郊良光宗務総長が出席、開会に当たって挨拶を行うとともに、シンポジウム二日目には「天台宗における慈悲」と題して講演を行った。その中で西郊総長は、「慈悲」について解説するとともに、天台宗としての対社会的な活動についても報告した。

特に一隅を照らす運動の活動状況の紹介や、現代社会が直面する諸問題―なかでも核問題、死刑制度の問題、臓器移植、さらにイラク情勢等

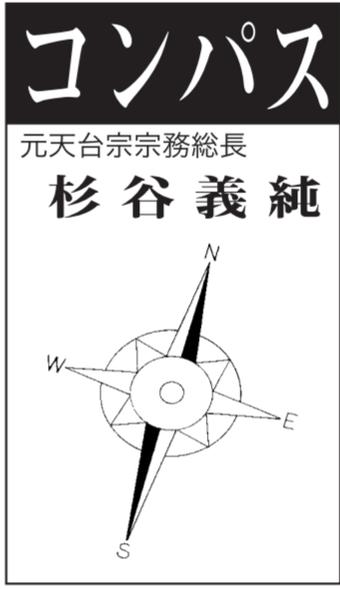


### 西郊総長 講演要旨

慈悲とは仏陀(釈尊)の教えを實踐する根本に置かれて

いるものである。自分と他者との区別はない。全てが平等になる。あらゆる物が自分と同一であると信ずると全ての生き物に対して限りない慈悲の心が生ずる。

## 宇宙に生きる自己責任



イラクで人質になった日本人が、全員無事に解放された。本当に良かったと思う。さて、今回の人質事件で

フセイン独裁政権崩壊後の混乱の中で、日本人外交官の殺害、自衛隊の派遣などがあつたが、多くの日本人にとってイラクのことは、まだまだ遠い国の出来事だ。ところが、今回の人質事件で、マスメディアによる連日の過剰な報道にもよるが、急に身近なこと化した。人質事件に事寄せて政府批判を試みたマスコミは、政府を語る被害者の家族の姿をテレビに登場させたが、国民の非難の矛先が家族の方へ向けられてしまった。そこで大慌てのマスコミは、今度は謝罪する家族の映像を流したが、この手法に違和感を覚えたのは私だけではない。意図

生命あるものは必ず滅する。ここに悲しみが生まれる。そこに生きとし生けるものへの優しい眼差しが必要となる。自分と他者が平等であり、何の差別もない世界が開かれて行く事が、仏教の理想の世界である。それは生きとし生けるものの平等を願い、命を

全うして欲しいという祈りそのものである。この慈悲を説き、実践する事は困難な事であり、理想に過ぎないと言われるかもしれないが、この理想に向かつて一歩一歩進んで行く事が仏教の使命であろう。「法華経」では、仏教者は仏の慈悲の衣を着、慈悲の座

うお経の中に、帝釈天の網の話がある。この網は何重もの尽きることのない網目である。そして、じつはその網目を構成しているのが私たち人間であり、動物や草木など生きとし生けるものであるというのだ。すなわちこの世の中の存在はすべてが相関関係で成り立っていることを知らなければならぬ。人間は一人だけではない。一人の何気ない行動が、実に多くの人や物に影響を与えてしまうのだ。だからこそ一人ひとりの存在はかけがえのないほど大きく、人命は尊いということもできる。自己実現とか自分探しか、耳ざわりのいい言葉を使って一人よがりの行動をする若者が少なくない。しかし本当の自己実現とは、他者との関わりや対話を続ける中で、自分の行動に普遍性を見つけていくことだ。そういう努力を続けていけば、たとえ危険な状況になっても人々は非難どころか、誇りに思ってくれるだろう。

### デスクから

以前に記事にした住職さんから「お陰様で、研修会に呼んでもらえた」と電話。よかったです。喜んでもらえるのは嬉しい。突然、パソコンが故障。せつかく組んだ二面分の記事が開けなくなる。担当者で大あわてで復旧にかかるも、原因不明。結局最初から組み直しになった。汗まみれになる。気温二十九度の暑い日々なりき●四国の住職さんから「大師は弘法に取られと言いますが、いま四国では、空海さんの入唐求法千二百年で盛り上がりつつあります」と言われる。ウーム、伝教大師入唐求法千二百年の

に坐し、慈悲の室に住まねばならないと説くが、これを説き、実践する人は、時には石を持つて追われるような迫害に遭うとも説かれている。しかしこの慈悲に溢れる世界を實現させようと、絶えざる努力を積み重ねる事が仏教そのものであると言えよう。又、日本天台宗の宗祖、伝教大師は、更に一歩進めて、悪しき事は自分が引き受け、善き事は他に与えよう。自己に対する執着を忘れ、他を利する事は、慈悲の究極の姿であると述べ、自分に対する執着を捨て、他に対して全身を以て奉仕する慈悲が、慈悲の極致である事を示された。現在我が天台宗は、偉大な先人達の導きに従って、この究極の慈悲の実践へ向かって歩を進めている。全てのものに感謝の念を捧げ、生きとし

### 示寂

津守良海師 平成16年4月17日御遷化。近畿教区井上院住職。4月20日日本葬儀執行。

キャンペーンをやらねば●各記者から出た原稿に赤を入れる。みな、それぞれに上手い、ひとつの平手打ち」と言うぞ。最初から読者をつかむように書こう●デジカメの予算がおりたので、買いに行く。フィルムに比べて、その場で確認できるのが有り難い。これで、出張先で「撮ったつもりがダメだった」というようなミスは根絶された。実力もフィルムより上ではないか●第三種郵便認可が伝えられる。内線で伝えてくる出版室次長の声もはずんでいいる。半年でよくクリアできたものだと思う。かなり、郵政局の条件が厳しく苦しい交渉だった。お祝いをせねば。

生けるものに思いやりの心を持って接し、宗徒一人一人が祈る事で、この想いが全宇宙へ少しでも広がって行く様に、一隅を照らすという運動をもって展開し、人類の幸福と世界の平和を願いつつ日夜努力と祈りを重ねている。世界は多種多様な価値観が渦巻いているが、私は各々が他者の主張を認め合い、許し合う事が必要であると考えている。天台宗は慈悲の考え方を基本にして、対社会的な活動を展開する事が慈悲の実践行として必要な事であると考え

掲示版

### 各地の推進大会

東京大会	日時： 5月29日(土) 13:00~ 会場： 九段会館大ホール 千代田区九段南 講師： ひろ さちや 氏
近畿大会	日時： 5月29日(土) 10:00~ 会場： 大同寺 和歌山市六十谷941 講師： 佐々木 光澄師(延暦寺副執行)
北総大会	日時： 6月4日(金) 10:00~ 会場： 南蔵院 旭市神宮寺2597 講師： 湯浅 法最師(圓勝寺住職)
兵庫大会	日時： 6月10日(木) 9:00~ 会場： 温泉町文化ホール「夢ホール」 三方郡温泉町湯 990-8 講師： 田中 利典師(金峯山修験本宗宗務総長)

## 仏教NGOネットセミナーで 海外支援の重要性を再認識

四月十四日、第三回仏教NGOネットワーク(松永然道代表)研修セミナーが、東京・新宿区常圓寺を会場に開催された。

このネットワークは、仏教の社会的役割が厳しく問われている現代、仏教者自身の自覚を施すとともに、一般社会の問題や地球規模の課題により深く関わっていくことが求められており、こうした状況を踏まえ、仏教NGO間の相互理解と交流を促進しようと設立されたもの。

今回のセミナーでは、バン  
グラデシユ・チッタゴン丘陵地帯の先住民で、その多くが仏教徒であるジユマの人々を支援している、ジユマ・ネットの報告が行われた。チッタゴン丘陵地帯では長年にわたる、土地を巡って政府やベンガル人と先住民ジユマの人々との間で紛争が絶えない状態が続いている。ジユマ・ネットは、現地の仏教関係者やNGOとともに、支援活動を行っている。

### 改組の諮問委開く

必要性、重要性を改めて考えさせられる研修会となった。  
一隅を照らす運動総本部では、平成十七年度から新たな運動を展開するにあたり、諮問委員会を設置し、四月二十二日に第一回委員会を開催した。

同委員会では、委員長の神原玄應師をはじめ、九名の委員で構成されており、一隅を照らす運動の将来あるべき組織形態及び内容を検討し、本年九月中に組織改革案を打ち出す。

## インドで私も考えた

②

一隅を照らす運動総本部長

壬生 照道

ライプルーに辿り着き、車で三時間半ほど走り、やっとドンガルガルへ到着した。そこから、プラジュニヤ・ギリ(ヒンディー語で智慧と言う意味)山の山頂を目指す。街を取り囲むように小高い岩山があり、古くからのキリスト

### 『熟睡する』



教、イスラム教の寺院が建ち並び、またヒンドゥー教の女神像が祀られている。そこに、一九九八年になつて、サンガ・ラトナ・法天・マナケ師によって釈迦牟尼仏が建立され、仏教も聖地を持つことができた。私たちは、

ここで行われる世界平和祈願大法要に、出席するためにやってきたのだ。現地ガイドのせいで、大法要には間に合わなかったが、歓迎式典にはなんとか間に合った。我々の到着を今か今かと待っていてくれたサンガ師に、あわせる

### 毎月4日は一隅を照らす日

一隅を照らす運動総本部では、毎月4日を「一隅を照らす日」と設定し、さまざまな活動に取り組んで頂くように呼びかけております。

- 一欲を捧げる募金・・・飲食や嗜好などを控えて募金を行う。
- 清掃奉仕活動・・・道路や公園で清掃活動を実施し、地域の美化に努める。
- リサイクル活動・・・家庭から出るアルミ缶やペットボトル・牛乳パックを集めてリサイクルに回す。
- 植樹植栽活動・・・木や花を育て、命の尊さや地球温暖化について考える。
- 資源節約・・・限りある資源を大切に、エネルギー消費について考える。
- 如法写経・・・写経をすることによって心の安定や自己の再確認をする。

\*これらの取り組みは一例です。それぞれの家庭や支部など身近なところから出来る活動を行って下さい。

ほら、  
あなたも  
輝いている



いま、あなたのいる  
その場所で  
できることから  
はじめましょう

キャラクター：桜井デザイン

一隅を照らす運動総本部通信

顔がない思いである。

そこには、どこからわいてくるのか、各地から何十万人もの仏教徒が、参拝に来ていた。いや、もうそれはわいてくるとしか形容のしようがない数である。

何時間も、いや何日も何日もかけて、歩いてやってくる。裸足の人もいる。彼らには、参拝できたことが幸せであり、喜びなのである。ひたすら、ひたすら時間をかけて祈る。この信仰心の深さには、ただただ敬服するばかりだ。信仰とは、本来そういうことで、そのことが功德であるということが、ひしひしと伝わってくる。日本の信仰とはあまりにもかけ離れていることを実感した。

翌日ナグプールからポパールまで夜行列車に乗った。日本の寝台特急のようにはいかない。パイプ椅子の背もたれを前に倒すとベッドが出てくる仕組みである。人で溢れかえっているから、脱いだ靴をそのままにしておく、誰のだか分からなくなる。壁に袋が付いていて、それに靴を入れておけというところらしい。二段ベッドだが、上と下の距離は一メートルもないから、まともに起きあがることすらできない。シートが二枚と

## 一隅を照らす運動総本部

皆様の情報をお寄せ下さい

E-Mail : [ichigu@tendai.or.jp](mailto:ichigu@tendai.or.jp)



毛布が一枚支給される。この時期インドでの気温は、日中三十度なのに、夜は五度である。昼は扇風機で涼をとり、夜は切る。暖房はない。だから、寒い。列車のどこかに穴が空いて、すきま風がビュービュー入ってくる。音も凄まじい、揺れも激しい。しかし、私の特技は、どこでも眠れることである。翌朝、同行している草別君に足を揺さぶられて「降りる時間です」と言われるまで、ぐっすり眠っていた。彼は、一睡も出来なかつたど、げんなりしていたけれど。(聞き手・倉田紀美子)